

祭



地域に伝わるまつりと新たなまつり

岡垣町には高倉神社秋季大祭など古くから伝わるまつりと地域や自然を舞台にした新たなまつりも開催され、ふるさとになくてはならない行事となっています。

高倉神社秋季大祭

旧遠賀郡21か村の総社として古くから信仰を集める高倉神社の縁起は、神功皇后伝説にまでさかのぼります。

おおくらのみこと つかのめのみこと

祭神は、大倉主命と菟夫羅媛命で、豊饒を感謝し、氏神様を祝福する秋季大祭は、毎年10月上旬に行われています。昔から地域の人たちには「高倉神社のおくんち」という名で親しまれています。

奉納行事の他にも、奉納相撲・剣道・弓道大会などが行われています。

まつり岡垣

町内外から約2万人が訪れる町最大規模の一大イベントです。毎年10月の第3日曜日、岡垣サンリーアイのふれあい広場をメイン会場として催されている、30年以上歴史のあるまつりです。

自然を生かしたイベント

海・山・川が揃っている岡垣町では、自然を生かしたさまざまなイベントが開催されています。

初夏は、矢矧川沿いでの「ほたるの夕べ」や高倉神社周辺での「ホテル祭り」。夏休みは、毎年多くの海水浴客で賑わう波津海水浴場で、「サマーフェスタ」が開催され、地引網体験などを楽しめます。

サマーフェスタ



高倉神社秋季大会



財

文化財と生きる

県指定天然記念物



高倉の樟

高倉神社境内にある5本の樟のうち、4本が県の天然記念物に指定されています。いずれも樹齢300年以上の老大樹ですが、樹勢は旺盛で境内は樟の森といった趣です。



高倉宮の綾杉

社伝によると、神功皇后が自らお手植えされたといわれており、その際苗木を逆さまに植えられたので「逆杉」とも呼ばれ神木としてあがめられています。永禄2年(1559)に大友宗麟の兵火に遭いましたが、焼け残った部分から再び芽を出し現在のような大木になったと考えられています。樹高17m、胸高周囲5.7m。

県指定有形文化財



木造馬頭観音坐像
(海蔵寺)

高さ62.4cmのこの像は、体内銘文から室町時代の嘉吉元年(1441)に京都の三条いのくま仏所の仏師である祐尊により造られたことがわかります。

像は、3つの顔と6本の手からなり、髻(もとどり)の上に馬頭を置き、目は非常に鋭く、正面は三眼で、瞳の縁が赤で隈取られています。以前は50年に1度の御開帳でしたが、現在は年に1度2月18日に公開されています。



紙本著色黒田如水像
(龍昌禅寺)

縦97.5cm、横48.5cmの掛幅装で、白い頭巾をかぶり、栗色の十徳を着た黒田如水の隠棲の姿が描かれています。

なお、この絵は井上周防が主君黒田如水を追慕し同寺に寄進したものです。



紙本著色井上周防像
(龍昌禅寺)

縦94.5cm、横36.3cmの掛幅装で、白い頭巾をかぶり、黒い十徳を着た井上周防の晩年の姿が描かれています。筑前入国後に周防と号し、曹洞宗の禅寺「龍昌寺」を再興しました。本堂の裏には井上周防之房の墓所があります。



銅製毘沙門天立像
(高倉神社)

邪鬼を含む高さは227.5cmのこの像は、室町時代の延徳3年(1491)に須藤駿河守行重の命により、筑前芦屋の鋳物師、大工大江貞盛により造られました。

像は両足で大きな邪鬼を踏みつけるように立ち、左手に多宝塔をかかげ、右手に三叉(戟)を持っています。芦屋釜で有名な、芦屋鋳造関係の貴重な資料となっています。昭和33年10月29日に有形文化財(美術工芸品)として県指定となりました。

文化財	無形	古文書	考古資料	工芸	天然記念物	史跡	絵画	彫刻	区分
吉木思案橋跡	東黒山の祇園山笠	竹井文書	鬼面文鬼瓦片	鯉口	大原神社の銀杏 (ツツジ科の常緑小高木)	九州鉄道・海老津 赤レンガアーチ	紙本著色大腕禪師像図 紙本著色釈迦八相涅槃図 絹本著色涅槃図	木造阿彌陀如来坐像 木造十二神将立像 木造二天王立像 木造胎蔵界大日如来坐像 木造阿彌陀如来坐像 木造阿彌陀如来坐像	手野・薬師堂 隆守院 安楽院 東黒山・阿彌陀堂
吉木芸能保存会	東黒山区	岡垣町教育委員会	岡垣町教育委員会	安楽院	遠賀中間医師会 おがき病院隣接地	海老津	海蔵寺 龍昌禅寺	手野・薬師堂 隆守院 安楽院	手野・薬師堂

町指定文化財



九州鉄道・海老津赤レンガアーチ